

キタテハ © Suipy

オンブバッタ © Metron



カワセミ © なりぢや



イトウダマキモドキ © イワガラガランヒ



アサギマダラ © Pirocco

みんなで
見つけた!

かわさきの

生き物

図鑑

イチモンジセセリ © イワガラガランヒ



オオカマキリ © よのきち



モウズガニ © akiochan



ナミアゲハ © イワガラガランヒ

秋編



カルガモ © wumi

投稿いただいた写真を使用しています。
写真にはユーザー名を併記しています。

公園や緑地、河川や海など、変化に富んだ自然環境がぎゅっと詰まったまち、川崎市。まちは発展し、開発も進みましたが、川崎市には今も様々な生き物が暮らしています。

2024年10月1日から11月30日までの間、市民の皆さんに参加いただき、生き物調査「アプリで生き物探し！特別クエストinかわさき～全国都市緑化かわさきフェア秋編～」を実施しました。わたしたちの身の回りにはどんな生き物がいるのでしょうか？さあ、生き物探しに出かけましょう！

生き物クエスト

ちょう さ けつ か 調査結果



生き物調査は、スマートフォンアプリ「Biome(バイオーム)」を活用し、市民の皆さんに川崎市内で見つけた生き物の写真を撮影・投稿いただきました。

~クエスト達成条件~

川崎市で見つけた生き物 **10種類** の写真を撮影・投稿すること

投稿された数
5,355 件



発見した種類
1,500 種類



クエスト達成者数
114 人



※クエスト:(Biomeアプリで期間・場所を指定し生き物調査をおこなう機能)

分類別の発見数

分類	発見した数(件)	分類	発見した数(件)
植物の仲間※1	2,196	貝の仲間(軟体動物)	72
こん虫の仲間(昆虫類・クモ類)	1,958	ネコやタヌキの仲間(ほ乳類)	70
魚の仲間(魚類)	526	カエルの仲間(両生類)	31
鳥の仲間(鳥類)	266	カニの仲間(甲殻類)	25
トカゲの仲間(は虫類)	97	ミミズの仲間など※2	19

※1 アプリ上の分類群「種子植物」と「その他植物」の合計

※2 アプリ上の分類群「その他動物」

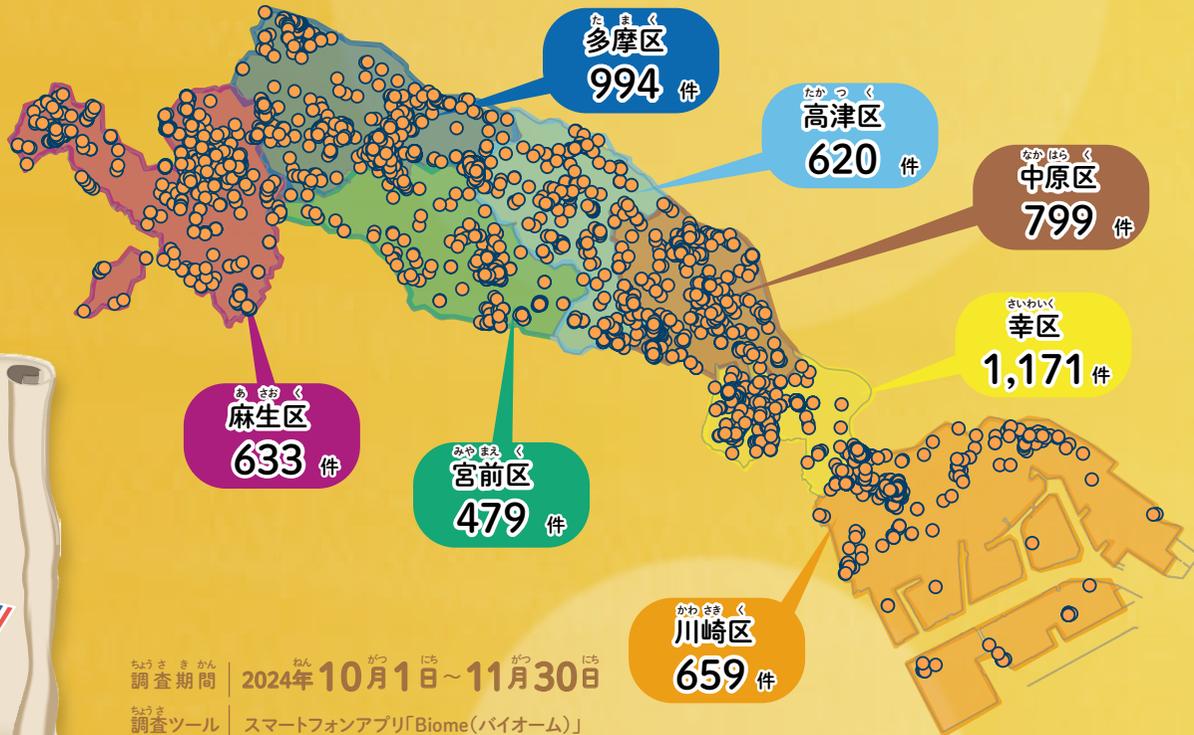
※調査期間中に川崎市全域からアプリ「Biome(バイオーム)」に寄せられた全投稿を集計したものです。

※いたずら目的や標本を撮影した投稿、写真の撮影日時が調査期間外である投稿は、「投稿された数」「発見した種類」の集計に含まれていません。

※種類の判定・登録は一般のアプリユーザーによるもののため、種類数に一部不確かな記録が含まれている可能性があります。

※「アリの仲間(アリ科)」のように、具体的な名前(種名)までは分からなかったものの、どの分類かまでは分かった投稿は「発見した種類」に含まれます。

※具体的な名前(種名)も分類も分からなかった投稿(質問投稿)は、「発見した種類」に含まれません。



調査期間 | 2024年10月1日~11月30日

調査ツール | スマートフォンアプリ「Biome(バイオーム)」

※地図上の点は、調査期間中に川崎市全域からアプリ「Biome(バイオーム)」に寄せられた全投稿の各登録地点を示します。

※いたずら目的や標本を撮影した投稿、写真の撮影日時が調査期間外である投稿は、含まれていません。

投稿の多かった 生き物 ランキング



1位 アオスジアゲハ

黒いはねに青緑色の帯模様特徴です。幼虫はクスノキの葉を好みます。



2位 バラ(栽培品種)

美しい花と香り、鋭いトゲが特徴です。数万種以上の園芸品種が作られています。



3位 ナミアゲハ

成虫は薄黄色と黒色の模様のはねを持ちます。幼虫はミカン等の葉を食べます。

挑戦！
ぜんこくと しりよく か
**全国都市緑化
かわさきフェア**
れんけい
連携ミッション

ぜんこくと しりよく か かわさきフェアの会期中（10月19日～11月17日）、
3つのコア会場を対象に、特別なミッションを配信しました。
※ミッション:クエスト達成のための小さな目標や、クエスト達成後もさらに楽しめる要素として設定される機能

～ミッション条件～
フェア開催中（10月19日～11月17日）に3つのコア会場
で生き物の写真を1回以上投稿すること

ミッション達成者数

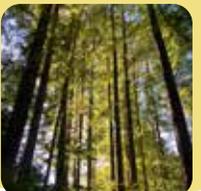
富士見公園	47人
等々力緑地	39人
生田緑地	67人



③
いくたりよくち
生田緑地

生田緑地ではかつての里山環境や、周辺の農地、樹林等が一体となった風景が今も残っています。そのほか、緑地を代表するメタセコイアの林をはじめ、秋の里山で見頃を迎える動植物の投稿が多く見られました。

投稿された数
578件



メタセコイア=ヒトロコメズミ



ノササゲ=Metron



ヒドリガモ=Wren

とどろき りよくち
等々力緑地

投稿された数
198件

等々力緑地にある広大な釣池は、水鳥など多種多様な生き物が見られる場所です。秋の調査では、冬越しのために渡ってきた冬鳥の姿や、秋に咲く野草など、徐々に冬の気配が感じられる投稿が集まりました。



オオバン=Wren



クコ=Metron



ツマグロヒョウモン=Wren

ふじみ こうえん
富士見公園

投稿された数
229件

園内ではテーマごとに植栽された多種多様な花が咲き、鮮やかな景色が訪れる人々を楽しませました。園芸植物のほか、花々に飛来してきたチョウの仲間の投稿が多く集まりました。



イチモンジセセリ=かず&まこと&とも



コスモス=リンリン4

※いたざら目的や標本を撮影した投稿、写真の撮影日時が調査期間外である投稿は集計に含まれていません。

ヒヨドリジョウゴ



**ナス目
ナス科**
秋になると実が熟し、透き通った赤色になります。莖や葉にはふわふわとした毛があります。

© 稲

カラスウリ



**ウリ目
ウリ科**
秋になるとオレンジ色に熟した実を付けます。葉が落ちた冬枯れの景色の中でも目立ちます。

© ヒトイロコメネズミ

ワレモコウ



**バラ目
バラ科**
秋の草原を彩る植物です。暗い赤色の小さな花が丸く集まった独特の姿をしています。

© ayams

ヤクシソウ



**キク目
キク科**
秋の野山を黄色に彩る植物です。莖を抱くような葉の形が特徴で、かつては薬草として重宝されました。

© とらぼん

カワウ



**カツオドリ目
ウ科**
全身が黒く、大きな群れをなして移動します。潜水が得意で、濡れた羽を広げて乾かします。

© akiochan

ジョウビタキ



オス **メス**
**スズメ目
ヒタキ科**
秋に渡来する冬鳥です。オスは派手な見た目をしていますが、メスは控え目な色合いをしています。

（春編調査で撮影）
© イワガラハラビ

© Wren

オカヨシガモ



**カモ目
カモ科**
地味ながら繊細な鱗模様が特徴です。秋に渡来し、お尻の黒さが遠くからでも目立つ冬鳥です。

© Wren

アシハラガニ



**じょっかくもく
十脚目
モクスガニ科**
ヨシ原に生息する大型のカニです。甲羅は青灰色で、泥の中に深い穴を掘って暮らします。

© akiochan

ホトトギス



**ユリ目
ユリ科**
花の紫色の斑点が、鳥のホトトギスの胸の模様似ていることが名前の由来といわれています。

© cadwalon

ツリガネニンジン



**キク目
キキョウ科**
初秋ごろに薄紫色のベルのような花を咲かせます。春の若芽は「とき」と呼ばれ山菜として知られています。

© 世界ひろし

あき みんなで見つけた！
秋が見ごろの生き物たち

花が咲いたり、さなぎから羽化したり、色が変わったりなど、生き物たちは四季に合わせて様々な変化を見せてくれます。涼しい秋が始まると、草木は色鮮やかに変わり、生き物たちは冬支度を始めたりと、いつもの景色とは違った装いを見せてくれます。

かわさきの

昆虫たち **秋** 編

かわさきには様々な昆虫が生息しています。昆虫は枯れ葉などを分解して農業に役立つ良質な土に変えたり、花粉を受粉して植物に果実を実らせたりと、私たちの暮らしに密接に関わっています。見た目やイメージから嫌われてしまうこともあります。同じかわさきに暮らす仲間として生息を良く理解し、共存していくことが大切です。



© Metron

カナタキ

樹上で「チン、チン」と鳴く小さな虫です。オスは鱗のようなはねを持ち、メスははねを持ちません。



© popo2960

イチモンジセリ

はねの白い点が漢字の「一」のように並びます。夏の終わりから秋にかけて多く見られるようになります。



© Metron

アキアカネ

いわゆる「赤とんぼ」と呼ばれるトンボの代表的存在です。秋の訪れとともに大群で人里へ移動します。



© Mathaki

アカタテハ

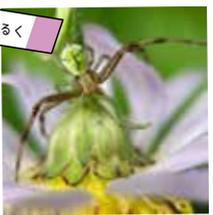
鮮やかな橙色と黒のはねが特徴です。成虫のまま冬を越すため、秋深くまで活動する姿が見られます。



© detaka@釣り師

マユタテアカネ

いわゆる「赤とんぼ」と呼ばれるトンボの仲間で、顔の正面に黒い斑点があるのが特徴です。



© てくてくあるく

ハナグモ

花の上でよく見られるクモです。網を張らずに待ち伏せをして、飛んできた昆虫を捕らえます。



© てくてくあるく

ブドウトリバ

細い羽を広げた丁字の姿が特徴です。ブドウやヤブカラシなどを食べて育ち、枯れ枝に擬態しています。



© イワガラガラヘビ

ツユムシ

細長い脚と緑の体、長い触角が特徴です。秋の夜に「ピチン、ピチン」と鳴きます。



© Metron

クワコ

繭から絹糸を取るカイコの原種とされるガの仲間です。はねは枯れ葉に似ています。



© pirocco

アサギマダラ

薄青い透き通ったはねが特徴です。秋に数千キロも海を渡り、南へ移動する旅をします。



© てくてくあるく

エンマコオロギ

秋の夜に「コロコロリー」と鳴きます。光沢のある黒褐色の体と、肩間に似た独特の模様が特徴です。



© Metron

ホタルガ

黒い羽に白い帯、赤い頭が特徴で、ホタルに似た配色を持ちます。初夏と秋の年2回発生します。

かわさきの 希少な生き物



かわさきとくく
川崎市の取り組み
市内に生息する希少生物
について詳しくはこちら



かわさきには多様な生き物が生息していますが、絶滅の危機が迫っている生き物も少なくありません。身近に存在する希少な生き物を守っていくためには、一人ひとりが自然を大切にする意識を持ち、できることから行動することが重要です。今回の調査で発見された生き物のうち、神奈川県レッドリストに掲載されている生き物を一部紹介します。

神奈川県レッドリスト 準絶滅危惧 (NT)

※準絶滅危惧(NT):現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によって「絶滅危惧」に移行する可能性がある生き物



©ひこえとひこみ

ウバタマムシ

コウチュウ目
タマムシ科

松の樹皮に擬態した、渋い銀銅色の金属光沢が特徴のタマムシです。色彩が華やかなヤマトタマムシとは対照的な色合いを持ちます。成虫で越冬するため、秋にもその姿を見ることができます。しかし、近年、松林の減少に伴い、神奈川県では準絶滅危惧に指定されています。

神奈川県レッドリスト 希少種(繁殖期) / 減少種(非繁殖期)

※希少種:生息地が狭域であるなど生息環境が脆弱な種のうち、現在は個体数がとくに減少させていないが、生息地の環境悪化によっては絶滅が危惧される種
※減少種:かつては県内に広く分布していたと考えられる種のうち、生息地あるいは生息個体数が著しく減少している種



©五幡製鉄所

オシドリ

カモ目カモ科

秋に渡来する冬鳥です。繁殖期が近づく秋になると、オスは鮮やかで派手な求愛羽に変化します。水辺の森林に囲まれた木の穴に巣を作るという珍しい習性を持っています。神奈川県では、繁殖期のオシドリは希少種に、それ以外の時期も減少種に指定されています。

神奈川県レッドリスト 要注意種

※要注意種:前回、減少種または希少種と判定され、かつては広く分布していたのに、生息地または生息個体数が明らかに減少傾向にある種



©naturalist58712

ショウリョウバッタモドキ

バッタ目
バッタ科

赤褐色の筋が特徴的な、細長いショウリョウバッタのような姿をしています。イネ科の細い葉に体を密着させ、一直線になることで周囲に溶け込み、身を隠します。ススキなどが生育する、自然度の高い開けた草地に局所的に分布しています。しかし、生息適地の開発などにより、神奈川県では要注意種に指定されています。

神奈川県レッドリスト 要注意種



©やまと 2006

アズマヒキガエル

む びもく か
無尾目ヒキガエル科

関東地方を代表する大型のカエルです。特に秋は冬眠に備える大切な時期で、夜間に活発に行動し、昆虫などを積極的に捕食して栄養を蓄えます。しかし、生活に必要な陸域と水域が開発により分断されるなどの影響で、神奈川県では要注意種に指定されています。

かわさきの **秋** 編

外来種 の生き物

外来種とは・・・

人の活動によってもともと生息していなかった地域に入ってきた生き物です。種類によっては増えすぎてしまったり、食べ物を奪い合うなど、もともといた生き物を大きく減少させてしまう場合があります。ペットは最後まで責任をもって飼うなど、外来種予防三原則を実践しましょう。今回の調査で発見された生き物のうち、特に注目したい外来種の生き物を紹介します。



アメリカザリガニ

十脚目アメリカザリガニ科

条件付
特定外来生物

身近な水辺に生息していますが、水草や水生昆虫を減少させ、生態系に悪影響を及ぼす可能性があるため、「条件付特定外来生物」に指定されています。野外への放出や販売は法律で禁止されています。ご家庭での飼育は可能ですが、野外へは逃がせませんので、現在飼育されている方は必ず最後まで責任を持って飼育しましょう。

©Akira Kurashima



メダカ

メダカ目メダカ科

特定外来生物

メダカによく似ていますが、攻撃性と繁殖力が高く、在来種のメダカの生息を脅かすため、「特定外来生物」に指定されています。メダカはメダカと比べて尾ビレが丸く、尻ビレが小さく狭いのが特徴です。

©もずくあたま



アレチウリ

ウリ目ウリ科

特定外来生物

非常に繁殖力が強い外来植物で、つるで周囲を覆い尽くし枯らせてしまうため、防除が難しく、河川敷などでの繁殖が問題となっています。秋には鋭いトゲを持つ実がなり、素手で触るのは危険です。

©kitoshiikerumono



ワカケホンセイインコ

オウム目インコ科

総合対策外来/その他の総合対策外来

インドやスリランカ等が原産地のインコの仲間で、鮮やかな緑色の体と長い尾が特徴です。大きな群れをなして「ねぐら」を作り、電柱や街路樹に集まっている様子がよく見られます。都心では大量発生により、鳴き声による騒音や糞害が問題となることがあります。

©macotnish

かわさきの 生き物を もっと 調べてみよう！

かわさきしでは、「生物多様性かわさき戦略」の取組の一つとして、市民の皆さんから身近な生き物の情報を募集し、地図情報としてわかりやすく発信する「かわさき生き物マップ」を公開しています。皆さんも身の回りの自然に目を向けて、身近な生き物情報をお寄せください。

● みんなで見つけた！かわさきの生き物図鑑

川崎市は、令和6年から7年にかけて実施した「アプリで生き物探し！特別クエストin かわさき」で集められた投稿情報をもとに、



電子図鑑

「みんなで見つけた！かわさきの生き物図鑑」

を作成・公開しています。

この電子図鑑には、本書(秋編)のほかに春編と夏編もございます。これらもあわせてご覧いただき、川崎市の豊かな自然をぜひ身近に感じてください。

● かわさき生き物マップ



かわさき
生き物マップ
はこちら



令和8年3月発行

発行 | 川崎市 | 制作 | 川崎市環境局総務部企画課 | 監修 | 株式会社バイオーム